

【概要】

- ASEAN 加盟国、高齢者介護の重要性で一致
- 国連人口基金（UNFPA）の新事務局長、Babatunde Osotimehin 博士
- インドの小口貸付溶解
- ガーナにおける障害者の発展要因
- 社会保護フロアの実行に関するアフリカの三者宣言
- 社会保護への新しいゲートウェイ開始
- 『ジェンダーのレンズを通しての社会保護再考』

ASEAN 加盟国、高齢者介護の重要性で一致

これは、2010年11月に行なわれた、第7回ASEAN社会福祉・社会開発閣僚会議後に
出た「ブルネイ・タイムズ」紙の見出しである。加盟国は、高齢者の福祉が引き続
き検討が必要な重要課題のひとつとして扱われることで意見の一致を見た。

宣言に先立ち、GO-NGOフォーラムは、ASEAN閣僚会議で検討してもらうための
草案を準備したが、これはICSWとASEAN事務局が合同で行なった第5回GO-NGO
フォーラムであった。ICSWは、各国会員団体およびHelpAge Internationalを含む
専門組織の代表者らと呼び集めた。



アセアンGO-NGOフォーラム準備会合への派遣団

「ブルネイ・タイムズ」紙は、さらにこう続けている。

『「家族制度を強化するブルネイ・ダルサラム宣言：高齢者の介護」は、第7回ASEAN
社会福祉・社会開発閣僚会議および第3回AMMSWD+3（日本、韓国、中国）のメン
バー国によって採択された。

各国は、高齢者の生活の質および幸福を向上させ、また地域の発展に貢献してき
た世代の人々が直面している社会的リスクを減らす努力をすることで合意した。南
東アジア地域において人口の高齢化が増大傾向にあることは認識されており、高齢

者へのケアを提供すべく家族制度の強化について意見交換を行なった。

ブルネイ・ダルサラム、カンボジア、インドネシア、ラオス、マレーシア、ミャンマー、フィリピン、シンガポール、タイ、ヴェトナム、中国、日本そして韓国の大臣らは、全会一致で、財政支援・医療支援の仕組みを導入することによって高齢者の面倒を見ることは政府の責任である、と認めた。ブルネイの文化・青年・スポーツ相であるPehin Orang Kaya Pekerma Laila Diraja Dato Paduka Hj Hazair Hj Abdullah氏は、世界および加盟国における高齢者人口の増加を取り上げ、宣言發布は、「極めて具体的であり、社会開発だけでなく福祉の強化にとっても重要である」と述べた。』

宣言に取り入れられたものの中には、以下のようなものがある。

- 品質の高いヘルスケアの促進
- 高齢者のための支援および社会保護
- 予防およびリハビリとしてのヘルスケア
- 高齢者間の貧困発生率を下げ、若い世代に、健康なライフスタイルを生きることの意識と能力を育むことによる、安全で、活動的で、健康的な加齢

各国には、高齢者に対する公約を履行するための手段を講じることが求められるが、そこには、より多くのリソースと毎年の見直しを準備することが含まれる。また適切なケアおよび支援を提供しつつ、社会支援制度の開発も考える必要があるし、家族の能力を高め、高齢者介護の能力を高める教育プログラムの開発も考えなければならない。

宣言では、各国に対して、高齢者間の貧困発生率を下げることで、高齢者の自立および経済的に活発であり続けるための能力を強化し、活動的で健康的な加齢を確保する条件を創り上げることにより、高齢者の生活の質を高めることが期待される。

さらに、保健という意味での生活の質を強化するために、各ASEAN加盟国の政府は、プライマリ・ヘルス・プロバイダー、ソーシャルワーカー、介護者およびボランティアの、高齢者介護における能力開発支援を提供することによって、リハビリ／予防ヘルスケアを含む高齢者のための質の高いヘルスケア、支援、そして社会保護を、これからも促進し続けるであろう。

その他認識されたものは、高齢者人口の社会的影響である。寿命は確実に延びており、高齢者への適切なケアおよび支援の提供という課題は増大している。

『高齢者のケアの問題は現在進行形であり、そして問題を克服する最終段階と言うものは存在しない。なぜなら、導入する必要のある新しいことが常に存在するからである。このような会議を通して、我々は、いかに各国における高齢者のケアのスタンダードを強化し、また向上させることができるか、について、他国におけるあらゆる最高の実践と経験を分かち合うことができる。』

Pehin Dato Hj Hazairは、このように述べている。



高齢者のケアについての議論を引っ張るICSWの地域会長、Braema Mathiapparanam女史

GO-NGOフォーラムの結びにおいて、Braema Mathiapparanamは、次のように述べた。

『これは第5回GO-NGOフォーラムにおいて、最も満足すべき結論です。ICSWは、高齢者のためのケア提供促進のためにASEAN加盟国の政府が踏み出した新たな一歩を、喜びを持って迎えます。』

国連人口基金（UNFPA）の新事務局長、Babatunde Osotimehin博士



潘基文国連事務総長は、国連人口基金の新事務局長に、ナイジェリアのBabatunde Osotimehin博士を指名したと発表した。彼はThoraya Ahmed Obaid氏の後任として、2011年1月1日に就任する。任期は4年。Osotimehin博士が直面するであろう数々の課題に関する情報については、世界開発センターのRachel Nugentを読みたい。以下を参照のこと。

http://blogs.cgdev.org/globaldevelopment/2010/11/can-new-leader-get-respect-for-un-population-agency.php?utm_source=nl_weekly&utm_medium=email&utm_campaign=nl_weekly_11302010

インドの小口貸付溶解



野心的なインドの小口貸付産業が、ここへきて、米国のサブプライム・ローン危機を地で行くような危機の真っ只中にある。アンドラ・プラデシュ（Andhra Pradesh）州の震央から戻ってきたばかりの、世界開発センターの上級研究員であるDavid Roodman氏が、意地汚い、政治的な陰謀と、つまづいてしまった良き意図の

もつれを解きほぐす。David Roodman氏は、小口貸付について広範囲に書いている。詳しくは下記を参照のこと。

http://blogs.cgdev.org/open_book/2010/11/understanding-india%E2%80%99s-microcredit-crisis.php?utm_source=nl_weekly&utm_medium=email&utm_campaign=nl_weekly_11302010

ガーナにおける障害者の発展要因

ICSWのチャールズ・アビィ副会長は、オーボ・アカデミー大学（Abo Akademi）の人権研究所にて人権について学ぶため、近頃フィンランドに滞在していた。フィンランド滞在中、チャールズ・アビィ氏は、外務省のニュースレターからインタビューを受けた。氏は以下のように語った。

『障害者は、慈善活動の目的物としてではなく、ちゃんとした関係者であると思われるべきです。約6億人の障害者のうち、3分の2は発展途上国に暮らしています。障害者は、他の人々と同じように、社会の発展に参加する必要があります。』



氏が目指すのは、資金を得ること、そして障害者の権利遂行および障害者の社会参加のための戦略を練るべく、ガーナNGOフォーラムを立ち上げることである。

『例えば、テレビ会議をやってもいいし、ラジオ会議をやってもいい。障害者も参加できるでしょう。訓練と、認識を喚起することが必要なのです。障害者だからといって、何かをする力がない、というわけではないことを知ってもらいたいのです。』

世界の人口のうち、1割は障害者である。ガーナも同程度だと推測され、それはつまり、200万人以上が何らかの障害を有している、ということになる。

障害者は、雇用を見つけなければ成らない、という実地的な問題に直面している。建物やバスのアクセスは、決して障害者には優しくない。

ガーナは、近年障害者の立場を向上させようと模索している。2006年には、議会が障害者法を採択した。これは、訓練や雇用機会を促進することによる障害者の地位向上を目的としたものである。

<http://global.finland.fi/Public/default.aspx?contentid=206951&contentlan=1&culture=fi-FI>

社会保護フロアの実行に関するヤウンデ三者宣言

国際労働機関（ILO）のメンバーであるアフリカ47カ国からの三者代表団は、第2

回アフリカ・ディーセント・ワーク・シンポジウム「仕事に関する世界協定を伴う社会保護フロアの建設」に参加した。シンポジウムは、2010年10月にカメルーンのヤウンデで行なわれた。ここ10年間の社会保護フロア政策の発展における数多の歴史的重要な事項の成果に関する結論を見直し、また、社会保障の拡張のために入手可能な戦略的なオプションを議論した結果、代表団は「全アフリカ人のために、社会保護フロアの効果的かつ迅速な実行を開始するため、全てのアフリカ加盟国および社会的パートナーにとっての緊急ニーズを認識した上での」社会保護フロアの実行に関するヤウンデ三者宣言を採択した。宣言については、下記を参照のこと。

<http://www.ilo.org/gimi/gess/RessShowRessource.do?resourceId=19140>

社会保護への新しいゲートウェイ開始

南アフリカにおけるワークショップの間に、社会保護に関する『南-南』学習ゲートウェイ (<http://south-south.ipc-undp.org/>) が開始となった。ウェブサイトは、国連開発計画 (UNDP) 包括的な開発のための国際政策センター (IPC-IG) のイニシアチブによる (<http://www.ipc-undp.org/>) 。

ウェブサイトのアイデアのルーツは、2008年にスタートした、社会保護に関するアフリカブラジル協力プログラムにある。これは、効果的な社会保護政策開発と実行を支援し、アフリカ諸国のパートナーと『南-南』学習を育むためのものである。

ウェブサイトは、「仮想本棚」のように設えられており、検索可能な世界中の社会保護関連資料のデータベースを備えている。集積されているものには、ツール、ケース・スタディ、政策ペーパー、研究論文などがある。資料室としての機能の他に、開発途上国の社会保護マッピングを売りにするセクションもある。

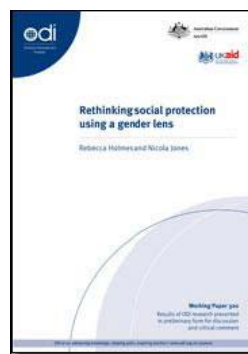
『私たちは、アクセス可能で多様な社会保護情報をもって論理と政策と実行の間のギャップを埋める橋を掛け、また、現場で働く人々がアイデアや経験、そしてリソースを交換する場所を提供し、国の貧困削減戦略をデザインし、実行するための、開発途上国の知識のベースを広げ、能力を拡大することを目的としています。』

IPC-OGの『南-南』学習センターのMelissa Andradeコーディネーターはこのように説明している。

社会保護政策対話に興味を持つ全ての政策立案者、機関、研究センター、そして市民社会組織は、ふるってこのネットワークに参加されたい。

『ジェンダーのレンズを通しての社会保護再考』

- ODIワーキング・ペーパー320
- 2010年10月
- 著者：Rebecca Holmes、Nicola Jones



- 本ペーパーは、現存する社会保護プログラミングのアプローチが、経済分野および社会分野におけるジェンダー関係を転換するために、女性の伝統的な役割および責任をどの程度まで強化しているか、あるいは社会保護の潜在能力をどの程度まで役立たせているかを検証する複数国のリサーチ・プロジェクトからの発見を合成したものである。
- 58ページ
- ISBN : 978 1 907288 31 9
- <http://www.odi.org.uk/resources/download/5099.pdf>

本ニュースレターの内容の引用・転載は、出展を明らかにする限り自由です。本ニュースレターに掲載された見解は、必ずしも ICSW の方針であるとは限りません。

編集 : ICSW 常務理事 デニス・コレル

ICSW 連絡先
P.O.Box 28957
Kampala
Uganda
Website: www.icsw.org
Email: icsw@icsw.org
Tel: +256 414 32 11 50